

杜杞園七部集

法之華經
三日月集

二



燈 不 宵 々 君 亦 也 似 可 澹 月 芦 涯

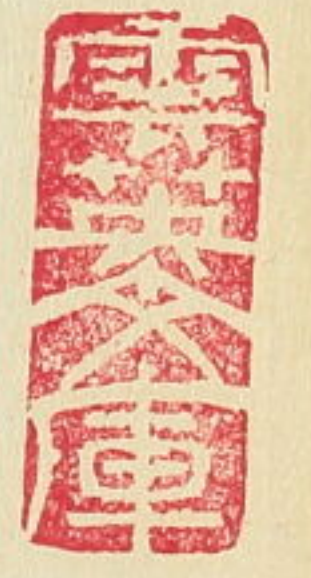
水 郭 塚

蘇 陰 結 亦 是 何 々 亦 是 知 亦 月 素 外
船 亦 々 々 人 亦 這 亦 亦 亦 亦 月 紀 鳳
山 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 月 重 羽
亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 月 桂 五

鳴 蛙 品 竹 算 六

淋 々 々 人 亦 亦 亦 亦 亦 亦 蛙 蕉 雨
写 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 大 鼻
亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 白 圖
蛙 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 子 繩
亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 墨 山
鳴 蛙 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 芦 丸

あまのうらみはなほあまのうらみ
人の縁正まふをほむしむて
あはれの時うらむと年ぬまの
くももあはれはあまのうら
まの世に事いふやかくち
世のいふしあまのうらみ
あまのうらみはあまのうら



時々人の好しとして其魂をな
さす其情のあらざるやあるべき
是れ其終のちる所以なりは其終
時を為す七とせむと追慕する也

朱按 史 士 詞

法法華經黃鸝品第一

尋常農初言如人苔如人 白圖
月をこのすきより下 岳終
山陰の里に 邵芝の香ふゆて 士朗
あそぶの情を清る 溝川 徐英
咲くは曇るはこれなる 杜若 騏六
ふみは一日漸く かりきり 白圖

白波がらをぬく海をなまそく
岳格

雛其日のええぬ門口
士朗

老僧のあなま掩んやうかり
徐英

あふさくくはきく姐板
騏六

古郷のたよりもあき秋の風
昆明

うらみ長さよまよふ縁可
方明

まろそは月、碓おたよひて
白圖

妻をうめ来る深き山の山
岳格

お河海を乳お停きてゆかきすそく
士朗

柳花カタ繁れくくちとちる
徐英

蜜うきお一本の桜年百く
騏六

あを惜めとをくむ丁のひ
昆明

暖人おゆきを看やうく小豆
方明

夜のやうねをちきく嬉しさ
白圖

さよの地おふ段をくくふるふる
岳格

恋の清水お新ふるまで
士朗

しんくき君のあつを遊んで

徐英

本戸をわらめふあける炬の火

騏六

今れる小昆陽のゆきのまゝ

昆明

松豊雀の世を忘れたる

方明

味増の香のこゝぬきをひまを

白圖

崎子の宮老舟をけりあす

岳裕

らん秋小何所てけのこゝ三日の月

士朗

小巻子くわりのる敷の雲

徐英

時突若後ふけいてるあるさ

騏六

南無阿弥陀佛と下駄を踏む

昆明

情あるやのゆゑ人の何れを

岳裕

みくも秋も恥しけり

白圖

懐を花の本のつるとゆを健る

方明

生駒若山をこゝるすき風

士朗

嘗てれ梅ふえ場ハありけり 北雲

うそひすそこのうも鳴るる月と梅 士朗

そ風の里ふえ

昔の晴るるたる船日のあ 椿堂

さあ〜記廿五日

あ〜よふ〜とあ北野哉 方明

あ〜の雪と踏のく山路あな 徐英

う〜ひす也朝日の早き糸の工 羅城

あ〜れあ〜ともあぬ小庭哉 玉湖

あ〜の新〜ゆ〜榎のあ 素菴

あ〜の砂のあ〜あ〜あ〜の松 杜常

う〜ひすの晴たふあ〜あ〜あ 槐圃

あ〜のは角ふかけたる山るこゝれ 自樂

宗祇あ〜あ〜とてあ〜
持流〜あ〜を人老
ち〜あ〜

あ〜よかあ〜人宗祇の小短冊 竹有

うらぶしよあきつゝもあ救の深 素剛

うらぶしよの小すけりうらぶしよの枝 猿左

うらぶしよのうらぶしよのうらぶしよのうらぶしよ 岱音

うらぶしよのうらぶしよのうらぶしよのうらぶしよ 墨山

吉柳品第二

海の中江四百中多ふ極ふふ 方明

柳見てあきつゝもあ人のあきつゝもあ 標堂

あきつゝもああきつゝもああきつゝもあ

郊居とあきつゝもああきつゝもあ

あきつゝもああきつゝもああきつゝもあ 騏六

川上とあきつゝもああきつゝもああきつゝもあ 八素

あきつゝもああきつゝもああきつゝもああきつゝもあ 素外

あきつゝもああきつゝもああきつゝもああきつゝもあ 天老

あきつゝもああきつゝもああきつゝもああきつゝもあ 百池

青柳農志をよみたり落葉川 大阜

青柳ふけい魚を月孔をつと也 魯雄

月小をいぬのさうかれふ物 棋價

寄白園老人

柳樹一人思つて流るる 九成

青柳ふけい魚を月孔をつと也 大江丸

流かりく柳の葉のふり 素兄

青の柳農志をよみ柳の一ぬり 岳格

青柳の面や小虫のひとり口 士朗

夕柳の音くさる日ふてくさる 亜湊

梅花品第三

飛きてる花がくさる梅哉 羅城

雪消かひる花戸のささけ 士朗

何事と云きくらまぬ其はなるを
 月孔ありに眼引をぬく
 何ろくと鞋はゆきをかく
 算の水より阿まるる菊の香
 四方山の氣の色をよめか
 寺多しもの破鐘を流く
 さぬくふまかされたる人のあや
 牙擦ゆりたをきかきき

岱書
 岳格
 桂五
 少女
 斗入
 羅城
 士朗
 岱書

如くもゆきよきのお菓ふり事
 麻孔衣を被く
 まそ志何し命を以門の浪の上
 御雲の影をうらるる原燈火
 空飛鳥もせず小庵をたてこめて
 月うあつととて鞋鳴なり
 かのうよと一里も二里も峰のむ
 六田の老農をさふ師也

岳格
 桂五
 少女
 斗入
 羅城
 士朗
 岱書
 少女

僧正此年より... 岳路
 所の病を拂ふ所の了後 岳路
 此の年のぬれを移すやぬれ 斗入
 船の舞の少り 羅城
 その跡のまじりぬれあり 岳路
 あゝの東よ けりるぬれ 岳音
 まよりていさそをゆく日山 士朗
 けりよををいさそを 桂五

あゝ露の月此陽よりよ回る 少海
 芙蓉の空をえをり 士朗
 うぬせそはかぬれ 羅城
 鶴のまけをぬれ 斗入
 葉子のまよふ袖をぬれ 岳音
 けりるをぬれ 岳路
 まよりぬれをぬれ 桂五
 百足の舞のまよふ 羅城

花ももるゝ喜葉かゝるも来たり 斗入
平も山あふゝのすむ大空 少許

蓬萊志先ひるもや冬の梅 天老
口の右の梅もぬぬ人も解 北雲

北野新社前ふて

くひのそら白き神のんがぬ 長齋

ひるふんよとてらるゝ柳言梅のみ 玄光

うへりまて身かき一海梅のたぬ 研松

白梅るふふとせあり梅のはな 柳莊

梅の香もけうちかぼすはな 竹有

くひもあふふ柳るゝ山路か 杜石

横着ふ梅唱あゝ寸庵かま 士峰

春霞一刻價千金

梅一木もあつて年もあつては春霞 松兄

岩井小雲の母の梅の花 大奥

若くは中流のありし一まんじり 逸漢

よへい見ゆるるのり庵の梅の影 卓池

お梅の紅ふえさ中なる茶室の春 文兆

新渡津よ孫前心づる春の苑 月居

ささ梅やゆまりふこよ今も花 升六

く知んくもるやけまつく中なる梅の 久松

元とめそ月つてささめく火のほな 呂利

く知んくもるやけまつく中なる梅の 左誥

枯竹梅のものがけくこすねて

小おらるるすくあると女のまゝめ

そりふゆんとうのふ

梅うさるふぬぬてもんくさの月影 寿松危

又山う本ありんふゆく守りおのる 方朔

中月本あ増かろのそ梅も白のう 女房

山つら梅さしものくく知んくを 騏六

ささめく梅ちつくふさるる 白圓

ひしひしく動くや梅の花

素葉

春雪三品第四

春の雪梅のさよふはなれ

自樂

春風のまろくうけ来る小雪哉

桂五

雪のちやぬぬも何れはる雪

松兄

志まのつたふりゆけり

素葉うらね事る念者原は陽にて

あさ雪の降ふはけとも成念

紀鳳

いせ浦や波あさる海苔もる雪

自徳

古寺や春の雪ふる月夜

素郷

春の雪浦の岸も松たて

斗入

もる雪積るの老あちの雪

杜丸

風浪の底をぬけ事る雪

蘿圭

る。新也。曾百北。朝の志のふま。 彰門

朧月品第ノ五

月おて牛一一の朧有苗 趙良
あ〜〜〜江船杉ひぬまの月 魯隱
をなれと穽かあちる月お哉 岳格

舟中

お布海月まのよちありぬ男山 昆明

おち〜〜

松よりいさ〜とちりおちる月 如高
春の月流お〜りい〜川 可都里
繼よる〜と〜しお〜り有月夜 青霞
ふるふる〜は〜く〜ておちる月 空阿
人お〜り〜お〜し〜と〜の月 素磔

豊川とつゝの所よ日く

る響よ陸のあゝる山あいのち

帯楳

瀬戸山ふて

陸あゝ垣をよあの本れ常即

岱青

あゝさりく心ゆきたを陸

友圃

山吹あさる陸の自見この解

入素

陽冬品廿五七

かけろのやけうりしなる端牛

士翹

机やん書物をえらふみよ

岱書

大せんち花ふち橋の園すき

帯楳

浪のまよゆるおみそあつえ

紀鳳

あゝるふくまおそあそ那き月を

大阜

御来のあまき宿の秋風

黒雲

まきつちあきも危くふれはて 代書

か何となく温泉のほとり 士朗

尾崎の娘の袂もあはれは 紀鳳

照る影さびき生雲の音 帯樫

むさうやま鳥のまじり 墨山

珠の南孔かく瓦のすそ 大阜

月近き吹草の葉を揉み 士朗

踏踏かゝる恋のありさ 代書

木辺よりくさし花を遠く 帯樫

志がけくさるのこゝろ 紀鳳

山鏡の矢を盾に雛子さし 大阜

と本と迎へる六十衆 墨山

梅の香も白鼻のくさし 代書

山崎の這入て袋ありあす 帯樫

御衣袋汗ふぬき 墨山

螢もすくさくもるうか 士朗

ゆけいふまゝの房のさのこ
紀鳳

あゝあゝろやまの海の版
大阜

松をよむまを木葉装の房を
帯棟

古くをよむ八月の月
代書

初原を不破の小あふえの事り
士朗

中ねとくふくらさのや
紀鳳

目ねあの後をいふさめ
代書

更てあつく包む白う
墨山

水もあつくいと旅のつら
大阜

いつくあつく湖のさ
帯棟

数えをいふゆゑ人の裕者
紀鳳

かりれあつくとすあつた
士朗

父をよむあつたのさ
墨山

あゝくあつたあつた
代書

河津ふ袖をかきくむせり
 かけろりや刀くして眠る人
 のきりろりや袖ふすぬる松の脂
 仰宗や河津消る松のひま
 かけろりや松葉をぬる油
 仰宗や馬の鼻はけら牛の尾
 仰宗や船の河のさうの舟の上
 仰宗や人ふ別事するきき麻

長寄
 斗入
 卓池
 羅城
 叱如
 白圖
 少汝
 徐英

混雑品第八

仰宗や衣ふささる秋の蝶
 来てふねを何のきき形小お碇
 仰宗や水の清水をふるふきかき
 ひまな〜〜〜ちてんを〜〜〜たより
 むね〜〜〜のききかき

白居
 物裁
 青阿

閑了半日

浅色く此机の上や巾着は
于當
中へもやまらうもふも松の影
一之
中へも穂葉ははりし秋の水
唐水

山居

来ぬまももふもふ人のまふれき
竹人
お影や指さぬ候もおわらぬ
荏聞
月又えてなうぬむくや下つな
洞星

坤のなるこゝろもなほなりぬ
雲帯

北のなるも杉葉おしおまふ海川
圃曉

昔の松のま
風巻のせよるもなほなりぬ
左重の風よのこゝろもなほなりぬ

そくしてうきもぬもなほなりぬ
壺伯
よつしておまふもなほなりぬ
若人
ふいふもなほなりぬ
双鳥
まぬのあやちあつたる影の形
其谷

宵月やとつし寝せむ。琴の上
蕉雨
月とをとるすりうさる。水車殿
雄淵

新客

三日月ハ己ヲ休家此月おのま
李臺

酔あきそてをあやし〜
うまのわらうそそら〜あな

きれみより月ハ〜り厚の雪
騏道

人小所にて雪の海み戸口哉
希言

暑りや都をけ〜む輝の雪
菊溪

秋風の月ハ吹あり山の工
長翠

秋の雨結より〜る常哉
蘭二

かり〜めれをふお〜をぬり
素方

中天をよ〜もあえり音月
雲門

お半れを川洲の雪ふち〜何
可董

雄子おお月ハ〜れお〜り
鷹田

淡海石中

一日ハ風ハ酔あ〜り春の松
沙漠

風もまじきまじき二月の影男 五明
露をそよよのむとんや 蟬の壳 棋價

送人

相明の先ふちをり秋の風 關叟

灌園

樽や何れ少くもあまき砂の上 卧央
ふりし穂しんもあまき秋の委 庭甫
露の秋の氣もあまき秋のぬ 延至

二日刈草ふ二日刈草ふの香 五周
ふすまじよかた厚まきまき 丈左
そのあまき秋もくく昔のふ 垂龍
鱗鱗や豆磨代々のけ可 泉兆
山崎をりてまきまきまき 如毛
穂まきの成りまきのよはつる穂まき 仙布
渙舟小秋の上ふ又ゆるかち 岱室
もる風のちよりくまきまきまき 柳涯

たのよふ日ぬきりぬや命ふ 啓甫

すむるを人のえんふ来る小あうあ 大年

みよしおをる雷ふ成きり小あん 松人

思ひおすよきなる秋のよみ哉 葛翁

際くハツミ門飛ても静し也 雨滴

月影よ舞のうけよあ影よ ち宜

みりうくりおや小鹿のむすき 珉丈

あのをぬきしあよるあきりん 春暁

二口アそんせうとぬけ一のふ 其成

まけ小燈りふもほりあふあふ 夷日

層岩山神妙ふよゆるうぬ 帯楳

あししは田んえおり山の上 昆明

をむしあ小宮を死せ秋のやあ 蘭水

みよりまねあも志や一おあ際 紀鳳

あまきよしあまかしく

ゆもせのあまよるお行晴雨 羅城

おぼろこの人ハ友形り秋の月 岳格
味吟のほ世尊ん雪の音 少汝
山寺をむよりふさしき 士朗
むろより雲うきとやま 岱書

寛政十年正月

撰者

岱書
岳輅

西上人東園のわたりし公孫
子載集勅撰あわと閑くし洛
しけふららまき水筆は師小
川あひだわ勅撰のこもきりぬ
るもろりけや披露して四歌も

お茶く入きわといひる里鴨立
沢のうやいしる系と曰はれ
りまは見えしれ梨ふかき茶ふ
やうくハいろり要ありとて夫
しりまのし東風ハ魚沼まはる
ろろ軽うね撰集乃本了わう

友白園かつく撰集かゝる沙汰
ありま十とまを抄くハいろり次
云筆一仙墨客の者ろろり
えしちとおおるる白をいろり
もあまの草抄をいろり
まに遺稿と見る事ろの志は

法いへ二二を補ふか
人姑きくく東国小帰
心と紙

享和二年春二月

少酒

三日月集

白圖撰

屯多乃ルーきとのいさる
成就院せさく紀む
此寺は魁堂

有とあ致多と人ふも似と
かくある女出結をわ亦
い趣ふた乃吟をい

塚をたすき築き置らるまは(五十季の
きり)とてあはる瓦破き木葉はる
狐狸をうぬく人ともさるにす
うわぬえに濱島の古歌うはは葉の
信實長者をりある上人の歌を
うわく廢ふと興一小堂佛坐す
きあに(と)る多梨庭中乃松柏
あををの垣か若風色う一庭をく

吟客乃面おふと毎ふ可るふをや

天明六年冬十月二日興り

三日月ふよくほいまのよ日月	士朗
四時ゆり若夕々終乃雲	暁臺
多きけまは道ゆく人のきわく	萬成
霧の瓢を川、流ふ雪梨	岳輅
うき戸の落くまう起朝朗	岡毛

奇しくもやうに見ゆれば若子
 落葉ふ梅乃 瓶うぶ老の杖
 ぬる言こころは洛陽名春
 雨の音ささくはくふきさびるわ
 足利海の衣ほゆくくし
 う川も勢てをまは流は羅城
 杜尚棠のゆきかたふ 月
 玉羅くとも風ふたはふ 羅河
 羅城 白圖 少汝 紀鳳 茶雷 沙漠 他郎 岱青

躍崩ししちまふ長 演 朗
 ありしとともを羅城まはるわ
 きの隈くまを記きあふお 萬
 菅公乃仰をまはくもろはハ 輅
 土筆ありわお流まをく繩のふ 毛
 うす墨まをまはく中には終はわ 漠
 山織すくくはかるともを流 郎
 新面をう終くと別すむらま 圖

あし波よする 薊草如中
鳥か不埒をひやに追あるふ
陣屋乃存六州ありて出る
大言司の名比男連を著あし
のー引ききふ 筆 峯 大
男心あ葉の山自自よ
四園あふりやせり六
まゆりー吐息はあふり酒

雷 鳳 汝 朗 城 萬 輅 毛

霧乃 眩 不 稀 少 事
あ 依 亦 喜 取 あ 万 の 秋 佳 舞
乃 控 坊 ろ と 古 歌 七 一
と る くと 羽 織 ち ね ぐ よ 木 枕
又 る 手 海 と の 日 初 る 万 事 集
有 と あ ぶ 必 を 集 る 心 さ くら
風 雅 と 万 形 性 いろ 歌

青 郎 郎 汝 鳳 園 漢

三日月

唐鉅の種といはなひ希言の月 曉臺

鶴りや三日月ちふる川 他郎

鴨一羽棲よきしら三日月 騏六

なうたる白まのどかんと次三日月 蝸角

百舌の尾よまの尾三日月 岱青

三日月の字ははくまの三日月 間毛

うら玉乃冠をよ入る三日月 大阜

ゆふ雲の巻やけしめ人の月 白圀

三日月に袖よ入よと見ゆる月 地如

三日月をよひさるる月 木人

三日月を傾お形する月 巨川

四のけや四の月よる月 杵尾

可多 ころころ

家つのもれぬをうし初ける 来山

しづれたつ使も秋の枯葉小 宇洋

あくるやまや月の出る小池小 五道

しづるや宿を松風杉の色 霜居

松を築ぬしづるゆり初ける 一蕙

ふりころころまゝ家宿の時果し 馮月

六か〜に啼り〜る鳥々南 斗入

ころ〜や小町うゑして幾せり 趙貞

風やあふふれ〜らむ〜め 也人

ころ〜や家と庭のちりの園 一之

かま〜 枯尾花

いんぶと〜る紀あ〜あ〜枯尾花 草人

風の尾を〜れ〜かま〜折るわ 伯先

ひらぬもすけりよ木尾花 蘭水
くしあし可親を思ふは満いろ ^{エト} 胡隼
枯あし此をわらぬき戸は ^{坂本} 許風

冬月 水鳥

志す所をのちよ礼やとほを冬月 李臺
あけの月あらく人乃木履か ^{サツマ} 巴水
あけぬく松をささる冬の月 葛齊

響くあはさしるもあそこの月 ^{大ッ} 武昌
あしあゆみてあはれあす小鴨あ 啓甫
あは木のあはれ形もあは子鳥 花叔

雪 みそき

けりゆきやあはれあはるさうさう ^{越後} 春曉
あはれあはれあはれあはれ ^{左琴} 重厚
あはれあはれあはれあはれあはれ

雪つじやうふう入は竹の葉 蘭厓
 人ははらひききのうわの戸はれ 希言
 掃あをを崩しうそくゆふの障 南陽
 ゆきのあやまこあつてれふれい 庭甫
 あり軍やわけあひあはるあま 梅間
 こころあや城下より建乃大板 春蟻

落葉 氷

霜 冬籠

戸口乃て落葉あはゆ住居の風 サツマ 窓巴
 けし言や落葉あはるもの 大ッ 龜梁
 小男麻乃やあはるあはる落葉 二本松 冥也
 みるほよのあはれいゆき 大 大蕪
 山雪のいふききぬ霜 万 万岱
 志すれ戸口の告ゆい 長 長齊
 雁乃啼いふあはる 魯 魯隱

冬木立 杜野 雜

おほやちとらうをんても冬木立 イナ 鸞岡

雪の身をたれし里れうま好るれ スハ 青以

月も雪もさうかうさうのあじい スハ きを女

寒き佛夕暮しうよあわらわ 杜石

けそやあやせまのちりまのあ 猪来

孔子盗跖一塵埃

飯くりぬ人さうさういゆあられや 成美

寛政四十一月八日無り

冬乃ふれいつまをんてくも静あわ 白圖

日ハきされくとおあふさうさう 岱青

きく麻のたしれうとよひ越く 士朗

皮草ふれくふらふおーお 徐英

極あきこくさうさうねら月の人 大阜

海緒ほつさうさう鞋あ種 昆明

ささふ波のあふはあつ次鷗啼
うき舟のうきふゆあつれの松
玉禪土器乃火とまよあつ
顔又勢多又一季徳若神
書ろめと二の町ハもやたしを
うきいすよはく寐こきあつ
も人こりやあわ乃南なる晨ゆ
は積てまあふう治心の霧

騏六
青 朗 英 阜 明 六

秋空お小籠乃ろとあつあつ
くくこれ身とけしあつ七十
ちまハと不新樓のまといろへ
破り香あふ四月農 雨
くくや蛙のうきあつすう海
色江小女のまのいりあつ
揃よとわいかくく風の前
たにまう乃系をかこ地まよ

青 朗 英 阜 明 六 圖

うづ坂の社まのいお梅子以
 戸板海とのふ舟脊負来系
 折しういまたつ子ておいと次
 硯の海のかろく折し崇
 本とよ浪走るるし川板菱
 好うちいそく不破のゆふれ
 竹杖乃ふしも七つよきぬ月
 酒くさくあれ蛇磨奈李
 青 園 六 明 阜 英 朗 青

水乃湧とる海十こゆる浅井也
 鳥羽の干瀉をまもる冥人
 燕多いで扇ちるる日れうつ日
 かまよう急くふ木よ花の咲
 きさうた又多これ存かめあまむ
 余る元ゆく 彩霞樓上
 朗 六 明 阜 英 朗

案旦

春くしハ春ハわわらるる奥山家 松亭 冬花

津路のちゆ乃馬糞を挿ちての
まればあしとわのこの涙をみ出さず

門香の留よ春見ゆるを居小 十州

元日ハ嬉し二日ハおもしろし 丈左

梅柳 春水

酔亦免やうはくくをれ梅の花 計之

志つらさるるものにハけり梅の花 フセシ 十邑

をいほし野よハ咲くうめの花 兆雲

梅や月ころの向五尺けり也 岳輅

春くしは梅ハ青くうわよ フセシ 百池

おろろや柳よよれ フセシ 吐牛

早波

早すしし浮世よ出ふ疾の水 青阿

草花

うらゐすや 歌子れは 関土みし 桂五

草の 庭ねう 枝わし 畠う 巢兆

草や 人のう ぶ世を 啼く 雄淵

うらゐも 此とる 時らう け 北鳳

草乃 啼 ぬも ちわ 相れ 五雄

うらゐす ぶ ちらう くらう ち 遠州 琴波

げふ乃 草えい どの ぶ 柳庄

月も 日も 花れ ちらう 大魚

春の 日 結 ちらう 天老

水も 草も ちらう 月乃 吳来 兵庫

草を け け ちらう 物知

曙の ちらう ちらう 虎杖

月も 乃 草も ちらう 騏六

けく けく ちらう ちらう 方朔

牛の角はよきぬもあつれり
如毛

くさくさしておろふころ

人軍をさすの奥まおふはく
玉江

清音のあはれはしのこころ
丈雲

さくらの日暮るころ
猿左

一と變れをこころ
草龍

すめらみくしをこころ
百席

いづれ志のこころよ
徐英

花二日のらひわてよう
素郷

さくらわちるよ
樗堂

さくらをこころ
椿堂

春の かすこ

けるれをこころ
蕉雨

あまのこころ
双鳥

とくよをこころ
かひ女

けふの月を待つて出たりは糸の月 スハ 若人
 燈よりじく君も似たり春の月 点 蘆涯
 とこそ本もはめよあそびける月 葛井
 かめの決りよふる心ありまを 士峯
 春風のちよくとくく山よわ 柳涯
 散梅は惜ましくともふ乃く 卧央

雛子 暮春

けふの月を待つて出たりは糸の月 スハ 東水
 燈よりじく君も似たり春の月 点 射道
 とこそ本もはめよあそびける月 マツ本 喚之
 かめの決りよふる心ありまを 福島 春唄
 春風のちよくとくく山よわ 代 吐文
 散梅は惜ましくともふ乃く 双南
 墨山

雜

正月のなすれうめぐる面敷う那 了國

淡ゆふよ家鴨をまらし門の池 嵐外

をらくハ候うまらけらる乃心 可考

ふとわめる者ともろろ人相の足 泉阿

宿とらえく遠道又よいしきまらふ 幾久成

勢下りましく田圃えんしすまそ神代 定雅

早来此屯のいつさくそ母まま春の露 素外

さしけはもめてさよまものよけらる心 推巳

初る歌ふむさく振のけらる魚丸 一音

あらま日のゆやとこめてすすこほ 玉之

あつ後のいひわたりおにりうらな 沙鷗

正月のまらハ人衆ならうらわ 白紈

まのそれ「原」もくまらしに守わ 兩曉

志く魚の勤けいうく水のいろ 祖淳

神代よりかぶや麻のおもく角 芳中

枇杷のちよふふあのかげ垣根木イセ 鹿明
風も下りてききし一りのあゝ男 五明

寸香 卯花

雫のふりよふよのよむとて次 昆明
啼ぬるハ望園さうす寸香 金鳳
ふいふき寸草の紫はくく藤葉イヒタ 蘭二
五月は二度ふくあて寸香 イセ 杜影

ほととぎすきけいさうふくあヒラキ の音 ちよ女
目枝よや川よせらほとて次 白岡
卯花よがさ川よ集くちしイセ 亞溪

けし 夕立 五月旬

あふれや花を揺ふちよふふし 長翠
ころやとちあやめうくれの五月旬 干當
五月旬よよふれぬまのいとさあが 魚秋

あつげしのはゆるあな不辨乃月

大坂

五寅

ゆきまにこゝろきて生る月夜小

素檠

閑呼鳥 鴨牛

ほつふ 坂巻

あもすれいふもささめすかんこゑ

桐栖

家志のふまゝくまうむことと

六悟

人の来ぬらうちをまき鴨牛

スハ 芸門

あさう月の二葉よのちるうらうら

同 呂理

はな井つふらり連なるがひから

四サキ 入素

あつしやがるもすうを念のふ

スハ 自徳

あつや故やうまふ松のうゑ

ハ代 斗睡

経敷 夏月

あつのはかハ扇のふもちうらけわ

松本 蛙圃

あつし、おや三日月もも唐の友

仙市

〇

神開眼

あらしをまよおぼるのたねをいそぐ エト 無説

あも易おぼるのたねをいそぐ イセ 宇六

あも易おぼるのたねをいそぐ スハ 宗古

あも易おぼるのたねをいそぐ 月 スハ 千丈

あも易おぼるのたねをいそぐ 莫二

あも易おぼるのたねをいそぐ

あも易おぼるのたねをいそぐ 青川

雑

あも易おぼるのたねをいそぐ マツ本 野雀

あも易おぼるのたねをいそぐ 上穂 阿彦

あも易おぼるのたねをいそぐ 汝蘭

あも易おぼるのたねをいそぐ

あも易おぼるのたねをいそぐ エト 文儿

あも易おぼるのたねをいそぐ 越中 吳山

はる波や伊勢乃田植のゆふすこ 五周

みしう花やすしする竹の月 武陵

此海山や花あまきれうし 濱藻

ふよおのしなるもぬ

並けきと麻の葉ハハちひるき みちた

竹酔日

ある人すうり花ふ屋和尚乃長談をきし

くふうとーふる了り庫ふこてり此人
一日予り子麻を訪い來まらり予同うの白子葉
白隠の筆をききまふとまありとよかの
わるの禪をうういふふやあこの徳を伝
ふふふふふやまてりふれまをわ禪味を
しおゆふふは徳はる竹徳を作くまあす
ましく筆乃花のむのよ竹の意のこゆ
まこを鉄持のよたこのをうまふうお
はよるれ花めそくおゆるわとらはハハお
おうとわのへるまこ人のここのらまら子葉
このまらうをにおこ乃ここのまのまをこ
まおおうしとおのふとらるるまもさうよふ
まははくよとてうらふまらぬこ乃竹酔日
ちれまらやこらおとおまらこ
あらいぬ

竹植る

少汝

はやふかき竹を植る

この日よふし来る人の奥

うきくのかみはこころの古き川 白園

志中りと紫のる竹を植るわ 魚堂

こぼれは植るう竹はあしるふ 布泉

うき直す糸の根をけし鴨牛 大阜

竹うきるあふさうきうきう海をまら 天光

あま植る竹ありふれくさゆり糸 卧央

竹うきくまきと植るからきものを 士朗

まけうきるふはやりのあふさ 羅城

糸植るまきとさるるをけし糸 徐英

月うきまきとさうりして竹を植るから 松兄

まけうきくまきとまきとあまけり 方明

まきとら竹を植るまきとあまけり 岳輅

糸うきくまきとまきとあまけり 玉屑

行脚

湘中清心

あはきるるさきさきひけりとならぬ
すむよきさきさきさきさきさきさき
斗入
升六

清晨帶露

あつらけ子終子の屋をひくす
まのくまふ
蕉雨
一草

清風高節

月うきまよらういへくたのあらし
煮礫

きり葉をちりよと
了國

露凝寒葉

あつらやねさき葉の可
し
可都里

あつら寸祇の森とけ
双南

朝雲密翠

まのね扇よりさ
よりあつら下
其成
魯隱

綠蔭漣漪

ろよくとそ枝よけふゆくの
柳莊
解くせりりよねくわる漁村ふ
樗堂

移竹半凋

まじくをちうにやあきか風
卓池
石のそく水のうまると入りり
國瑞
あくのあうう見えは雪の中
宇洋

鳳枝吟月

うらうらやの枝ハハハハハハ
白居易
うら竹よはをうらよももも
杜鵑

前面寒光

きわもやうううううううう
友國
樹のき乃たうもももももも
長齋
日乃まもぬあもももももも
景山

享和元秋七月廿五日興行

あさ白をとり初りけりふ小庭小 挂五

きの、端あをくむ秋乃日 少汝

月や面あめやうきあふなる心 羅城

葉もあをを流るぬきうね砂 魚堂

もよす急く又も捨るうら世貞 松兄

をわく連のかりふ爽風 大阜

蒼乃わくとちくにこるらことこ 天老

くく面を流くふ初ぬき正月 玉江

吸まのふはかこのころか唐くし 五雄

あやあふ心あの一し野々 葛井

法もそく網のうい鴨の急 橋良

多相回ハ敷の在所うらわ 嵐堂

片心下り卒始漫の文章をい包之 岳輅

あり新ふ居る人うす父母 蘭厓

むもはやまのきこひ久日ひみち
方明

言はるゝなれ月かみありぬ
霜居

維子の尾よそ殿の裾をうら返し
東水

中しある人しや世世の手ゆかぬ
梅間

俣協の大はきふふあふ酔り
士朗

傘ささしうある面のとりし火
五

猿巻り何とぞいひし振敷垣
汝

月ふり度よかき蓄け葉
兄

白き窓のうらなうたはゆふ蔭射
堂

悪色をうかともく標は物さふ
老

松風の一方田かうらうら
江

すしつれむはるよあえふ子位時
雄

うらなあふ夕飯と紅をうらふ
井

ふとすしひはと唐をうら月
良

おしあふはひ乃芒の尾巻して
堂

芙蓉のよと紙うら寸法師
輅

夜眉の白ふも折よふし
 膝よきしうあそふ子供等
 ちわむらハ形無きの待よ勤き翁
 壁の屋ふまきり及ゆるる公館
 青柳の青き中よわをさるる
 雲よきよみよみよみよ
 城 間 水 居 明 厓

初 籠 星 夕

盆

多るか啼一ねらうのふ、秋さるぬ
 ころ屋とを桐の本持多様をや
 石もさるやきもえく又えるころ何
 ゆふさしやあぢあぢあぢあぢの川
 お不流の浦のよきうふ星むく
 秋と香ひしちるる入はるま
 越 巢
 澹 波
 可 都 里
 壺 伯
 白 園
 紀 鳳

〇廿八

世やうらなれどもや志めるまの月
以南
うらまやいづ門中の夕ありし
秋國

新白 きめり

いづ箱の世を舞の木の枝
士朗

嘆うらましく舞のあしふ
自樂

あしふのいづ人はあふふ旭うら
尺父 大坂

舞や飯のほめたる新麻心
玉湖

石うつ敷のうらまも月夜う那
蛙村 イヒタ

おろせのきうなりけりきき
いと女

蘭 菊 萩

香をうらましくそよよ舞く心路事
月居 干

うらなれ萩もある箱の菊はうらま
祇徳 サラマ

萩の萩さしよも月ようこきけり
琴州

うらま居れハ萩うらまぬ萩のを
嵐堂

志しきく乃川俊さるし萩すき 李園

札はまきくし節ふきく乃海さる 高砂文

この家も云とる形さる萩のはれ 卓池

仲風う神めまきりわ藤のとも那 帯楳

小富とらふ山中ををりたるり麻乃
是いふううまておこころまををら
お増しつきたるうらまけさゆすう胃の
肩よるるう那と証らるうう萩と記よりう

萩のこころは乾くぬ麻のさる 羅城

秋風

煇言 世

節々々多う飛くも秋乃うせ 升六

人のおのひ人の志うはる好の風 喜年

あより海のまうひさしうまのう 上徳 山臯

秋う勢もふきりくうれ遠う申 左雀

あれし朝を又あきあ次秋の風 嵐素

庭をけハ掃り麻し秋乃言 蒼虬

いよを流のけききゆわおはせさる

瑞馬

風乃尾を日う袖うあく吹うらぬ

子東

病あらしけきつるさけおのぬ

少汝

きつむくむ

秋蝶

霧

きりぎりし

そる秋

お乃のめを壁つてろりんきりす

如東

朝きわよ又えがくすのさああが

さき女

之井るのひよまうるや秋を蝶

祐昌

夕小竹のきりて秋やきしゆん

橋良

おもう人やさよとある秋を蝶

白居

いつれのきりやう

おもうくと得る

くちあぬともあは残りらるる

全

雑

あきあうくまこふらあまこらねら

乙二

あきあや秋のひよきりきり

一州

ハ菊の梅さくあはらうさきとし ニテ 文地

人をえんく啼らわ秋のらうす 瓜坊

猪妻や蚊よらうもといふがし 葛三

雪よのち葉もえんく輝のくれ 圃曉

うまのまゝしん

糸とらるふ木搔垣根やまゝし 梅固

家うけを抱くをくや秋の蝉 一炊庵

海芽ゆやほゆのうへに影あけ 冥々

かくてしうろくを世あきし心 硯静

月

名月やはぬのそく川むし 都貢

あまじく妻の初さよ秋の月 サカ本 魚村

やまははいく席うる月のひ影 尼 寿松

りすむや琵琶のあらを拂い 周瑞

のちるほとあはれハ月の影ふる 魯堂

こころのちかき乃相はけつれくほの月 宇曲
我様をりり敷くふいそくお 竹有
浪ハあふりいハ竹よ結の月 方明

享和二年春二月

女海補

